

令和 7 年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 親和会	代表者	山崎幸男	法人・ 事業所 の特徴	利用時間・サービス内容を決めることなく、通い・泊り・訪問を利用者様のニーズに合わせ柔軟に対応している。 なるべく、在宅を重点に置き、家族と疎遠にならないよう調整を図りながら、家族の休息も取り入れるよう泊りサービスを提供し、利用者が穏やかに生活できるようなサポートを心がけている。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 恵みの里 眺望	管理者	中村小夜子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2 人	人	人	1 人	人	3 人	人	6 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・全スタッフと情報共有が図れるように伝達を密に行う。 ・特に新規の利用者様との関わりには、時間をかけて関わる事ができるように努める。 ・利用者様の「～したい」の実現のため、思いの共有を見える化していく。 ・半期ごとに自己評価を行い、より良いサービスに繋げるよう意識向上に努める。	・勤務引継ぎの送り等情報共有はしているが、申し送られる側の伝え方で、スムーズに伝わらないことがあった。 ・新規利用者様に関しては、関りを多く持ち、生活歴等を探るように努力した。 ・利用者の「～したい」の要望があった場合は、実現できるよう計画し実行した。 ・8 月 12 月に職員の自己評価を行い、改善点を見つけ、サービス向上に努めた。	・目標が簡素・明確であり、結果も出ている以上が 10 名、1 名だけが出来ていない時もあった。との回答でしたが、全員が目標に向けて取り組んだと思われました。 ・特に地域での暮らしの支援や連携・協働が改善されにくいと思われるが、当事業所がスムーズに運営されているので良好である。 ・利用者の想いを「見える化」することは、職員間の情報共有だけではなく、より良いサービスの検討及び提供するうえで重要であると考えている。是非、「見える化」に向けて具体的な方法を検討していただきたい。 ・1.初期支援から9.人権プライバシーまで事細かに分かれていますので、事業所自己評価が理解しやすかったです。 ・1.どのように相互理解を深めるのか？ 例) 家族を招待して歓迎会(イベント)を開催する 2.どのように目標を共有し、支援計画するのか？ 例) 利用者様のニーズをデータとして記録し、月1回(2か月に1回)具体的な支援策を職員会議する。 4.地域からの協力についてどのようなことを想定しているのか？ 例) 地域住民との交流の開催をきっかけに地域とのつながりを形成し地域住民との協力体制を構築する。	・利用者様個人の報告事項は、他には知られることのないよう、ミーティングは別室を設ける。また、書面での報告も交えながら職員間で共有を図る。 ・知れた情報は、カンファレンスシートに記載し、次回介護計画に活かす。 ・職員会議の際、その月の介護計画書、評価月の利用者様の家族の想いを共有し、どのような支援ができるか、検討し実施につなげる。 ・毎日のミーティング、定例の職員会議で緊急性のある事案は早期に対応を検討する。 ・外部へ出向く研修が減っているので、勤務時間内で受講できる zoom web 開催の研修へ参加を取り入れ、職員のスキルアップをしていく。

			7.意見や情報をどのように検討し、運営に反映するのか？ 例)意見や苦情を受けた場合職員会議を開催し改善策を検討する。 8.職員研修について ZOOM 開催しているものなど勤務時間で施設内で受けられるものなどで検討してはどうか 9.申し送りの場所や手段(PC 画面や書面)を検討してみてもどうか	
B. 事業所のしつ らえ・環境	利用者様と共に、居心地の良い空間になるよう明るく快適な環境づくりに取り組む。 誰でも入りやすく、何でも相談できる事業所作りに努める。	利用者様一緒に季節に合わせた創作に取り組み、和やかな環境づくりに努めた。	・玄関入るとすぐフロアで、利用者の方々、スタッフに気軽に声掛け、挨拶できる雰囲気を感じる。これからもそうであってほしい。 ・施設内外において、清潔に保たれており、利用者様が過ごしやすい環境となっている。 ・スタッフ同士の声掛けが良好であり、居心地はよさそうである。 ・誕生会、季節に合わせたドライブ(お花見・紅葉など)山田まつり見学等、施設の外への外遊は利用者のリフレッシュになるかもしれません。	利用者様と共に、季節に合わせた創作、和やかな雰囲気になるよう快適な環境づくりに取り組む。 ・スタッフのコミュニケーションを大切にしながら地域に親しまれる施設を目指す。
C. 事業所と地域 のかかわり	地域貢献活動として、ベルマーク集め・雑巾の寄付を継続して行う。 外部との交流は、その都度状況をみて交流していく。 職場体験等の受け入れや、地域交流の取り組みを図る。	・雑巾は、利用者さまに縫っていたき、町内の小学校へ届けた。ベルマークは職員も協力し集めている。 ・年間で計画し、行事ごとに慰問の受け入れ。また、外部へ出かけて、交流をしている。	・小学校への雑巾やベルマーク寄付、中学生の職場体験受け入れなど、施設の PR になると思う ・外部との交流活動は活発であり、事業所の雰囲気は良い ・中学校の職場体験を受け入れており、学生の福祉教育に貢献されている。 ・町内の小学校へ雑巾寄付や地域交流を行っており、若者世代から、高齢者世代まで、幅広く地域の方々に知られている。 ・利用者様が、雑巾を縫って寄付することで、身体機能及び、認知機能低下を防ぐとともに、地域貢献や生きがいになっていると感じられる。 ・委員になっている民生委員以外の方にも施設を知ってもらおうよう行事など見学の案内をしてはどうか？ その他、老人クラブ、自主活動団体など利用者が参加しているものがあるか聞き取りをしてはどうか？ ・ベルマーク集めは、自分も貢献したいと思って集めだしたが、マークがついている商品が昔より少なく大変だと思った。 ・慰問活動に時々接しますが、見ている利用者の皆さん笑顔が素晴らしい。	・利用者様の縫った雑巾。また、集めたベルマークの寄付活動を継続していく。 ・中学生の職場体験を受け入れ、福祉を身近なものにとらえてもらえるように努める。 ・慰問交流することで利用者様の笑顔が一つでも多く見れる様に努める。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者様を取り巻く環境の把握に努め、情報共有を密に行う。浮かび上がった課題等を、ミーティング等で共有、検討を行い、必要に応じて関係機関に繋げて行く。	認知症状の経過による状態の変化があった場合には、共有、検討を行い、医療機関、行政(包括)等へ相談しながら、本人の暮らしを支援した。	・感染症の流行時期を考慮しながら、新たな団体との交流を深めていただきたい。	・地域からの慰問の受け入れ、地域イベントへの参加を継続していく。 各地区で行われている「より合っこ」「健康体操」等への参加支援をし、孤独防止や、地域への参加を促す。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議での内容や、利用者様や家族、地域からの要望等を職員に周知し、一緒に考え、地域に開かれた運営が出来るようにしていく。	・運営会議で出た意見は職員間で共有し、利用者が利用者しやすい施設作りに務めた。 ・医療機関や行政(包括)からの利用者様の受け入れの問い合わせ等があれば、できるだけ受け入れられるよう検討した。	・運営推進会議の意見は職員間で共有したり、医療機関や行政からの問い合わせなどにも受け入れ、利用しやすい施設づくりに努めていたと思われます。 ・利用者様やご家族の要望等あるのなら、会議で一例をあげていただき、情報共有したいと思います。 ・職員の方々の利用者様への気配りの良さを会議出席の度に感じていますが、「こんなところが大変です。」の愚痴も吐露してほしい。 ・利用者様のニーズに基づいた地域交流などの実現に向けて、運営推進会議で検討できればと考える。 ・運営推進会議は、今現在の取り組みでよいと思う。 ・利用者様も尊厳を守るについては、自己評価でも100%できているようですが、会議でも、時々確認の意味でも、その旨を伝えていただきたい。	・利用者様やご家族からでたニーズを、運営推進会議にはかり検討し、地域資源を活用しながら地域と一体となり、支えるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	潤滑な避難・連携が図れるよう防災訓練を実施する。 災害発生時に必要な備蓄品を切らさないよう管理・点検する。 送迎時などの避難場所・避難方法を的確に把握できるように、2 カ月に 1 回再確認の場を設ける。	2 か月に 1 回の実施はできていないが、職員研修で、避難場所の、避難方法は確認している。	・町の災害対策では、この事業所がどのような位置づけになっているか分からないが、とりあえず、当事業所だけの対策を準備しておくことが大事だと思います。 ・あらゆる場面を想定した避難場所、避難経路及び、避難方法を職員間で検討していただきたい。 ・現代社会では、毎年大きな災害が起こっている。特に当施設で気を付けてほしいことは、送迎時において利用者様、スタッフの安全確認を日ごろから今まで通り気を付けていただきたい。 ・夜間を含めて、施設内での防災訓練は定期的に行っていると思われる。問題は送迎時での避難行動です。職員研修で避難方法を確認しているとのことですので、安心はしていますが、職員の皆様の安否確認方法も作成していますか？	・年間防災計画に基づき、防災訓練を定期的に行う。 ・備蓄品の管理点検、補充をおこなう。 ・送迎中に災害が発生したことを想定し、近くの避難所へ避難する経路確認の訓練を行う(全職員)。